

## 第3学年技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時 平成24年11月8日（木）4校時

学 級 3年4組（男子21名 女子15名 計36名）

授業者 教諭 伊東かおり

### 1 題材名 「幼児の生活と遊び」 ⑥幼児の遊びと発達

#### 2 題材について

##### (1) 教材について

本題材のねらいは、実際に幼児と一緒に遊んでみる、幼児を観察する、簡単な遊び道具を製作するなどの実践的・体験的な学習を通して、幼児にとっての遊びの大切さを理解させることである。

現代は、家族形態の多様化や少子化の進行とともに家庭生活も変化し、中学生が幼児と関わる機会は極めて乏しくなっていると言われる。こうした現状から異世代である幼児を理解し、思いやりや温かな心を育み、人間の成長、発達とそれにかかわる家庭や社会を認識することは意義深いことである。「自分の成長と家族」において、自分の成長を振り返り、中学生になるまで家族や周囲の人々に支えられたことに気づかせ、本題材「幼児の生活と遊び」の学習に入る。

また、本題材で学習したことを基に「幼児とのふれあい」学習に繋げていく。どのような遊びをすれば幼児が喜んでくれるのかを考えさせ、年齢による発達の違い、能力の違い、興味関心の違い等を考慮して遊びの計画書を作成させ交流学習を実施する。

##### (2) 生徒について

生徒は幼児と触れあう機会が少なく、同居している家族に幼児もいない。幼児に対しては好感を持っている生徒が多い一方で、どのように接すればよいか想像することが難しい生徒もいる。

事前調査の「幼稚園実習を実施する前に不安なこと・心配なこと」について、どのような対応をすればよいか想像できない不安を記述している生徒が多かった。このような不安は、幼児と触れ合う経験を重ねることによって解消できる内容のものだった。ただし、幼児と触れ合う経験が少ない生徒にとっては、幼児の遊びを具体的に想像することも難しいと思うので、「幼児の遊び」のVTRを視聴し幼児に対する興味関心を持たせるようにした。また、「遊びカード」を作成することで、自分の幼児期の遊びについて想起させ「遊び」を身近なものとしてとらえさせるように配慮した。

##### (3) 題材の指導について

本時の授業では、生徒らが幼児期に体験した遊びを紹介し、たくさんの遊びを経験して成長してきたことを実感させる。また、具体的な遊びを種類ごとに分類し、それぞれの遊びによって育つ能力があることを確認し、遊びの特徴を理解させる。

思考を深めさせる為のステップとして、「小グループ→全体（学級）→個」の段階を踏ませる。話し合いや発表の学習活動を通して思考を深め、広げさせ、最終的に個に帰結させ自分の言葉で結論を導き、学習課題の解決に迫れるように展開していきたい。

3 題材の指導・評価計画（14時間）

(1) 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
幼児の生活や遊びに関心をもって幼児の観察や小物の製作、幼児と触れ合う活動に取り組み、幼児と適切に関わろうとしている。	幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方、幼児との関わり方について考え、工夫している。	幼児の遊びと心身の発達との関わりについて観点に基づいて観察し、整理することができる。	幼児の心身の発達の特徴と遊びの意義について理解している。

(2) 時間ごとの指導・評価計画

時	学習内容	学習目標	評価規準	評価方法
1	・幼児期ってどんな時代	・自分の幼児期を振り返り、幼児の発達と生活に関心をもつ。	・幼児期の発達の特徴について理解しようとしている。 －関心・意欲・態度	・観察 ・学習プリント ・挙手発言
2	・幼児の体の発達	・幼児の体の発達の特徴を知る。	・幼児の体の発達の特徴を理解することができる。 －知識・理解	・観察 ・学習プリント ・挙手発言
3	・幼児の心の発達	・幼児の心の発達の特徴を知る。	・幼児の心の発達の特徴を理解することができる。 －知識・理解	・観察 ・学習プリント ・挙手発言
4	・子どもの成長と家族の役割・地域	・幼児の生活の特徴を知り、家族の役割について理解する。 ・子どもの成長と地域とのかかわりについて理解する。	・子どもの成長を支える家族と地域の人びとの役割について理解することができる。 －知識・理解	・観察 ・学習プリント ・挙手発言
<b>5 本 時</b>	・幼児の遊びと発達	・幼児の遊びの意義について理解する。	・幼児の遊びの意義、遊びの役割について考えることができる。 －工夫し創造する能力	・観察 ・学習プリント ・挙手発言
6	・幼児の遊びを支える	・幼児の遊び道具の役割や遊びを支える環境について考える。	・遊びを支える環境について考え、中学生としてどのように幼児に関わればよいか考えることができる。－技能 ・幼児のおもちゃの役割を理解することができる。 －知識・理解	・観察 ・学習プリント ・挙手発言

7 8 9 10	・幼稚園実習に向けた製作「なまえワッペン」	・実習製作を通して、幼児についての理解を深める。	・意欲的に製作することができる。目標を持って製作することができる。 －関心・意欲・態度 ・幼児が喜ぶものをイメージして製作を工夫することができる。 －工夫し創造する能力 ・「なまえワッペン」を作ることができる。製作道具を正しく安全に取り扱うことができる。 －技能	・観察 ・作品
11	・触れ合い体験の事前学習	・幼児と楽しく関わるための遊びの工夫を考える。	・職員と協力して幼稚園実習に向けて話し合い活動を行うことができる。 －関心・意欲・態度 ・年齢に応じた適切な遊びを考え、工夫することができる。 －工夫し創造する能力	・観察 ・実習計画書
12 13	・触れ合い体験の実施	・触れ合い体験をする。	・意欲的に幼児と関わり遊ぶことができる。 －関心・意欲・態度 ・幼児の目線に合わせて遊び方を工夫することができる。 －工夫し創造する能力	・観察
14	・触れ合い体験の事後学習	・触れ合い体験を振り返る。	・触れ合い体験を振り返り、幼児との関わり方や楽しく関わるために気をつけること具体的に見つけることができる。 －技能	・観察 ・実習レポート

#### 4 本時の指導

##### (1) 本時の目標

幼児の遊びの特徴に気づき、遊び意義について考え、まとめることができる。

##### (2) 評価規準

幼児の遊びの意義、遊びの役割について考えることができる。(工夫し創造する能力)

(3) 本時の展開（評価の○は本時の目標に関わる評価、●はその他の評価）

段階	学習活動	形態	指導上の工夫及び留意点	評価
導入	1 幼児期の遊びを知る。 2 学習課題の確認	一斉	・生徒自身が幼児期に経験した遊びカードを紹介する。 ・「学習記録カード」に記入させる。	
3分	<b>わたしたちは遊びの中でどのようなことを学んできたのだろう。</b>			
展開	3 幼児期の遊びの意味を考える。 (1)遊びの特徴を知る。 (15分)  (2)遊びの意義を考える。 ①グループ内で話し合う。(7分)  ②発表する。(5分) ③意見交換する。(2分)	一斉  小グループ  小グループ	・遊びにはさまざまな種類があり、それぞれの種類に共通した特徴があることに気づかせる。  ・遊びを通してどのような能力が発達しているのかグループ内で意見交流させ、考えを深めさせる。  ・4～5グループに発言させる。 ・発表を聴くことによって新しい発見や疑問が出た場合は、意見交換させる。	●運動・受容・構成・模倣・感覚それぞれの遊びの特徴に気づく。(挙手発言) ●グループ内で意見交流し班員の意見をまとめることができる。(観察) ●挙手発言でできる。(観察)
45分	(3) 本時の課題について自分の考えをまとめる。 ①VTR視聴(3分) ②自分の考えを書く(5分) ③発表(2分) ④まとめ(5分)	小グループ 一斉  個人	・動き、ことば、人間関係に注目させる。 ・本時の学習課題について、自分の考えをまとめさせる。 ・挙手または指名をして発表の場を設ける。  言語活動：遊びの意義について、自分の考えをまとめ発表する 活動⑥	○評価規準 遊びの意義について自分の考えを書くことができる。 (観察・挙手・発言)
終結	4 本時の授業を振り返る。 ①本時の授業で「気づいたこと」をまとめる。 ②自己評価する。	個人	・「学習プリント」に記入させる。 ・「学習記録カード」に自己評価を記入させる。	●自己評価でできる(学習プリント)
2分				